再板

# 農業全書

三草之類

六

伊藤篤太郎記

特 7
〃
456

国立国会図書館　タイトル『農業全書 11巻』 請求記号 特7-456

ガラス使用

特7-456

# 農業全書卷六目録

## 三草之類 十一種


木綿 第一 弐拾六ヶ
麻苧 第二 弐拾六ヶ
麻 第三 弐拾六ヶ
藍 第四 弐拾弐ヶ
紅花 第五 弐拾六ヶ
茜根 第六 弐拾八ヶ
藺 第七 四拾三ヶ
席草 第八 四拾六ヶ
烟草 第九 三拾弐ヶ
菅 第十 四拾六ヶ
王蒭 第十一 三拾三ヶ


伊藤篤太郎記

国立国会図書館　タイトル『農業全書 11巻』 請求記号 特7-456　ガラス使用

## 三草之類

### 木綿 オヒ

木綿は古い唐よりもろこしへ近古宋朝の時分南蠻より種をもらひ来りてはじめこゝにひろまる。

於とは〻木つもとく今若く廣まれり南蛮の花よりも宜しかるべしとこゝろの中

なく河内和泉摂津播磨備後備前備中備後肥後か
る而已とうくこゝ利潤あり故ふる穀をこゝを
さて自己と多く作る而あり尾張よい本ころよと
の二毛あり米はたかいぞうりもありてこゝ棉綿
よりはるく安くはり故拵ごとこゝ賣
と活びたさ巻のごとくと記せるとうと作るはるよれ
どもはゆへよ本物とこゝあるこれども本はこゝ功劣
るとこゝくこゝ多くこゝ単棉と作るる也石穀よ
沢てこゝ衣服をるくくて多らぬすかわどもこゝ
とこゝ作るべこゝ古本物いまこゝ
こゝ

いこゝ又ごと貧士も絹とこゝるもちるちい。
こゝ麻布といくこゝ織こゝ多こゝ賣こゝ
して法人国者よたゝごよこゝ仁義あれども湯ふ
よこれこゝのこゝ島とこゝる政ありくこゝ
ゆくはいまこゝこゝ湯ときるもあこゝ
こゝ民多く成蚕をかひこゝ
かわこゝべこゝずこゝこゝ
でとこゝこゝ又島のこゝとこゝ
こゝ財とこゝべこゝこゝ棉と作るこゝ
こゝこゝ民用こゝこゝ拵こゝ

ゑるゝ人はなはだとふうけ性ひ民と嫌む二ぬれ一場ゝゝ
く四家の急務るべしまづ人どもし畿内近方
ハこゝ粥とひくく作りあせでとをぬれまくへ今
もこゝ作りそうおろそかにくるべくるかどゝ作りあとゝ
かくゝ料と云花と陰動ゝおかせとくやこゝあるゝ品多し。
ゐゝ米湯ハ作るはあゝかゝざれで実りあゝさゝ
才ゝゆゝこゝの得ホイのまれ書ゝもゝるゝとけると○
先稗ゝとゝくゝぶゝ一ゝゝ中に。
白花のかゝくゝ黄花のかゝくゝもすぐきてゐた稗なり。
石紫わゝとくく概ひ紫れゝとくゝ花英白



ひ二ゝあり又赤ゝとれ大ごくゝびとゝもあり又ちんこ
かゝくゝゝ白きもゝゝゝ稗なり。ぬれゝ稗へ桃のつく
ゝ紫れ粒とひくゝく粒ゝゝ紫ひひゝ稗と
ゝくゝ白ゝゝはくく接ゝハかゝくゝり粉ゝゝ美ゝか
くれゝくく粉ゝよりて実ひ裏粉あるこゝ白ゝね
と呼びて求め作るべし。他ゝ花ゝゝくゝ桐
夏あるかれゝゝ考ゝとゝくすべし又ゝ
のゝとゝくく苦麻より麻ひた稗ひ。ハさくゝやと
くくゝくるかれゝゝ祇ゝくゝ
ゝ紀ぬすゝ糸のゝゝ紀をぬむかのハゝとも作べし。

又山城の産わさこくあされ紫よ此さうあり。色よ
よさこた稼なり。雑稼名てい多し。とのべこと。門ちの
稼れこるハ。山ふよ。泥まろ。○粧ふとおさめをくるい
うねこ会を入へ稼と多こび稼と。とのべこも四のハさ
ねかりもるものかれこ。ぶこさるもの。中秋おつこさ
てこれくれ。かりこざるとん多てこ。ぶこふこくよく吹き
ここるとれこく。別よおさめこ。十しそりれ。接ふを
紫う情よ入く。温和よあこぬ所ふ。時日ふ物
く乾しこくべ。○こゆる可ふハ。十八枚を又六日又
かけく稼を上。時こ。八十八枚を中



ハここ。ふり。吹く。稼ふ。沢ふ。一日も早こ。さに。ふ
ぶこ。又。五月の中。乃ち日。あまでハ稼こ。もくこ。かこず。
吹こ。人も。ふハこる。ものも。桃。わこ。秋乃日。ふり。多り
てハ。素のかくふこ。ここ。ぶこ。ふ。又ハ。秋。面つぐこ。多
ありても。平こ。さハ。人こ。このぐこ。わなり。稼こ。くすこ。
るかく。養し。ふ。べと。用れぐ。七月中に。ふ。中。吹ハ
もるわすり。○同く。稼る。ぶのふ。さ乃こ。犯こ。深こ。
素うかるとぬこ。ぶこ。ぶこ。ふ。又。桃。ぶぬ。ものなり。
低今。付こ。も。為ふ。こ。ふこ。ぶ。わ。稼りて。こ。こ。強
こ。ぶ。ふの。ぶ。ふこ。養と。多こ。更ひ。こ。へ。こ。要こ

まてうぶ。利多きものすぐれたる。何にもよくもあり。
泥まハりくもれくに畢にあるとこ傳りある所ハ。山
中ゆど旁ぶりとこ池と隙て。尾本綿ゝ作らしれざる
地ハ稀なるものあり。ふ陸大和の山間ようくもある
といくくまるべ。なるとこ海ちこのぢ。ぞの間のよく
吹ぬりて。日当のようとこ所ハ勝れく本綿ようまり
きものなり。○又もくおつでさそて図面ようの作るのいい
ひあり。ゆ年。ゆハ三月ゆすぐハ作るべ。田乃地
味とあくびあるとこと作れど。ゆ年ハ元実るとふ
ありく出もなどもたくもなり。ゆ又

稲と作れと地味新しくして必ずしもよくあるものあり。ゆ年ハ元実るとふ
泥まハりくもれくに畢にあるとこ傳りある所ハ。山
中ゆど旁ぶりとこ池と隙て。尾本綿ゝ作らしれざる
地ハ稀なるものあり。ふ陸大和の山間ようくもある
といくくまるべ。なるとこ海ちこのぢ。ぞの間のよく
吹ぬりて。日当のようとこ所ハ勝れく本綿ようまり
きものなり。○又もくおつでさそて図面ようの作るのいい
ひあり。ゆ年。ゆハ三月ゆすぐハ作るべ。田乃地
味とあくびあるとこと作れど。ゆ年ハ元実るとふ
ありく出もなどもたくもなり。ゆ又

うゆるばかり○かぶ菜と云ハ畔菜を作りてき処
ゝ[illegible]くぞ麦かぶをかかざゝ[illegible]
[illegible]よさ稲とへるものなり。是ハ[illegible]
根下におりてよくへかとそくくしてもるしかるべ○
よせ苅とゝ云ハ日蔭のあれま麦根よりよせて落ひ上げ
さると稲ようくさゝくくと筋をとかさてく。稲をとへる
ものなり。苅ゝ稲の法ハ何と所ようてさゝうして
作るべし○同くゝ稲の名号ハ[illegible]
麦目一麦又百目ゝくも此の肥癖とさう出れ
へして雑もおく肥る此かゝうばさかゝをまくい苅べり

らびゝ稲とあにひゝ虎とうゝ合せ一粒ばく
ばくくとなりゝとゝ穂よへ是左ハよさげ。
取ゝ紀ハてさゝゝ筋をかさ[illegible]てくかさゝりるく
ゝゝとまゝ稲よおひゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝうしてよを
ゝく踏付べし。たねを去と思ひ合すべきさめすり。
他ゝあゝゝ塩去をバ蔵べゝゝど。中より下れ地ゝ
ハゝに虎糞をゝゝゝ[illegible]肥ゝ[illegible]
肥ゝ[illegible]ハへるゝ及ばゝむ面新よ苅べゝゝど[illegible]
ゝ時ゝゝ日干せべゝをそゝぐゝゝて苅もう
○同ゝく糞れゝゝハ田畠ゝ[illegible]ゝのゝかるゝ色。

先ん根糞とゝく。二染よ生ゝうゝひゝうゝ時はゝてゝうゝ筋の中と黄れがゝ病むとゝゝいゝゝとゝゝ入すもゝうゝと苗てゝぐゝうゝう根のゝさゝにとゝ水ゝ入すよ穴をつゝゝ。ゝゝかゝへ綿よても油糟よても一豆入べゝ。入綿かゝうゝべ。わゝゝく切。中へ下ていりゝあゝうゝべゝ。糟ハ粉よ水ゝてへべゝ。ゝゝゝゝ又十日又日もゝうゝとてゝあれゝとゝよ糞を入べゝ。又十日もゝうゝを苗てゝ。一あゝよ筋をかゝゝ糞を入べ。いゝゝゝも糞を入ゝくハゝとおかゝゝべゝ。ゝゝゝゝ

よ。あるより二三度まで多の糞にかぶせるなり。
或ハ牛馬の糞ばかりの稲まやきまぜ糞の新しき泥水とを
もちゐべし。あるいハ稲くさ灰ごとに田をおこしてを
ふにうちかけ。そくばくあるもかれば。俗よハ
ひぐさしの国の熱氣にてよきを所ハ泥糞多糞うれ
ハ冷れの新しと見ひやうけ宮ハ氣ある所にてハ温熱
のものやきごゑかどの新しと見ゆべし。ひやはとんこ地ご
とにあ移りして。まに清水と組へくちぬのを初ゝべ
し。又伺裏にくも。彩ーくにてきを一度ゝ多
く見れば必出をすどるるなり。ゆうに絲ゝうと紛つきさ



ちかどハ泥ごゑと合せてくに地をさらふすべし。○中
うちとるるなり。始後ハ六へんもとべし。むるよりもとくべうう
ど。○ゑるハ。ゆんゑ糞ゑてよりハ。ぶくゆうちに家ごとに。
汚ゑくゆうとくゑ。ゑ六すよ一ち元をくをかゑ
ーとす。泥流地ハ拳すゑ入へかどて。厚くもるゑ地ゆべ。
又竪ゑ。そも横ゑにくも。一月ハ肉ゑ廿ち或ハ十六
ゆ立をくと中ゆうとも云なりゆうゑ。ゆうくゑ
うるかゝどして。ゆくさうへうるゑ。刑同多ーくゑるべ
一○一番中うちゑ時。茶のすぐれとゆくゑ。ゑ
てんゆるあり。見牧ゑ稼れ生ゑうるなりぬゑ拾べし。二

番中うちて時をもぐ仕く染めたるこさぐ色もこて厚さ
あり色大核子として二粒乃性と合せてるなり色を
も同じくぬさまべし紫紅黄をよく人知りてぬさ
まざれぐ地方さいまずくふくさう人染だるを
まげりて桃あるべども染あるハ根あづ宝付なり
○又あるべ紅ハ木綿ハ黄と用るも根ごとして黄
竹ともひり地ハようも黄をいろ多く用ひくも変
紅よく黄へ色ろこうして利益ある所もあると
まるせり ○墨ハ中うちて仕様ごく根根のあれ
うくかる紅おかへべし色も一度よハかさよべらず。



色ハ小清へべし仕様ごあ乃かるくおかよものを
ち ○柿と為るあハ木ふとりさう人用一紙乃中にて
桃二つ三つ吹るとも分る時中にくうくのびるる
とされ二三すつ切べしどうくのびとくん人ゆるを。
思ひく長くかけく切まべし。唐乃書ハ根のさき
とも為るとあり。ぬ木ハくハ根ハ紙と為るハ小か
しといへども。ふとりさう人根よるべし。地ごて桃根と
多くらこて根ともの。ごしる。ふ節て損あり。桃
ふくにようこにもごと ○同じく根根のの肥るる
桃ハ。なあ七八分十分ひる乃乾ハこと上も分る

あり。未だ成るさ角二尺ばかりとなるくらいに作るべし。
ちいさくまるくハうゝ。屋根書にも言ハるゝ。む
ぐらずとゝんくゝうゝ。迎ゝて茅まろ。せいつゝく横よハ
ゝ。ぞうくのびざうハ。むかよりハれどもよりハ作へか
らずハかりがてきるあり。ぬと雨ゆべし。菊ゐどとつ
くるもこゝにとゝひかりとゝんくゝゝ。
作ゝべ。高辛麦と作るべし。茅ハ稲
ぬと。茅ゝうゝどとゝ。ぬし麦作とやめくゝ。
ふゝかりとゝ。ぬれ去くの紀ゝ。ぬうゝ。むかハ麦とそ
くあゝ。ぬゝ。地やせくゝ。宜しゝ。ぬうゝどぬ。ぬゝくゝ。ぬ



稲と大麦ハ。ぬ。ぬ。ぬ

とるゆへ花れ多ゝあるゝ所あり久しくハ作りべからしと。あ花の外村かく。茅もも和漢ちくく赤物を作くべ汚れ水と苅れ下て苗て花乃氣と打ゞさいそう
かゝて作るべし　○又稗乃苗ハ麦と苅とて麦わ
たとゝ作る時ハ秋田と刈れくくあるとゝ
とゝ。毒味とけく。あとゝかゝ田乃乾くとゝ
ゝ。正月二月乃ゝ三月も穿かきとゝかゝ時
多ゝ苅て時作りて植べし。　○あ又ゝ作り植ゝ
ゝ苗ゝ苗ゝ苗

て皆損じくさるを空しくする事多し時分
く苗付くべし入梅明おそれば極暑ゆゑ花咲
てぞ実の中に粃多し七月中に植ては
ぞ俗に風雨はさざひあるとそ
多し三分の利はあるは
ずとそ又ぞりにてはるとれば俗そ
ふあひくはるるはりつ門のもとあり空新の泥
とそ又正月早く新しそもぞ大麦くら豆と養と
あり世くおいくすきさ稲をうのづさ
問ふはりてぞ麦くらもかどさうくるとぞ麦苗
とたうら遠し畦作り常はくくしも稲をうれ



ぞ麦は根際にたれとはてあるくうれ麦くさて裏
しともなり場氣の脚とあるゆゑ稲の指をそうあひ
てぞをどにもさのを麦ゆゑ十日あはず月考
れ苗ちやうり早くても新くて盛もるおなり
○又湿氣ゑ苗れざいはるくゆる苗のゆゑ
ゆるはくれを苗しとき作く苗継べし又新
の中苗れるげきを作のくうくたをけるくかり
おくしくつぎくるくぞ稲を苗ちぎくるかすくるれ
なり○又本稲に実れ病とたるあり早ることて空
氣ゑ病みくぞ流るちくて苗をあるう

そくけそ麻よりあらわく物る二ぞ稼あく
てけるといでゝし湯る三基あつゝくゝ麦細くや
せく沸よりさゆるゆるみけさ四なりぞ四つの病
あゝんとあゝつ指よゝうとゝ黒くゝ物くよくそ
ろひるとねめ黒くゝ蒔くゝ。ゝあ稼ゝみくそ化瓜
ゝうゝゝめゝるとゝ蒔べさ十日もお肥地ゝ共物ど
ゆゝと蒔くゝだ稼ゝ生死とんみく蒔べゝ角本
物ゝの作ゝ植ゝよとゝくゝいあゝゝくゝもゝるゝ黒ゝる。
作ゝうゝ人ゝ物ゝ植ゝひゝよ物ゝど植ゝ作ゝ物ゝる黒ゝ化ゝ物ゝ
ゝゝ黒ゝとゝゝく物ゝと植ゝ作ゝ物ゝ大

○歳月ゝ人本稼ゝと作ゝ湯ゝ大



概と口げゝゝ人よをゝゆゝゝ稼ゝとゝゝぶゝゝ
くゝゆゝゝ時ゝゝ月ゝ蒔ゝ一日ゝくゝ蒔ゝより
も蒔ゝとゝゝゝ紫ゝゝゝゝとゝゝゝ蒔ゝゝ中ゝうゝ
さいく黒ゝゝゝゝゝゝゝゝゝ生ゝ蒔ゝ蒔ゝ物
ゝくゝ物ゝ蒔ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ。
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

麻苧とうゆるゝ。ちゝ苗
ひを定め新しいろかゞも
くこふし。塩かもなく
あゝくこゝゝ濃糞
を多くうちさゝゝ蒔。
二月中旬。麦畝のごとく畝作り
ひろし。横よせ蒔く筋
ゝ。横とりおひ蒔なり。ばせ
ひくへ。ぜんちよりすぐ
らまきとゝ。根ゝく。あてゝ中と割つゝく白瘤
むまゝ。さ間かゝゝ秋まくさ
ゝくと割ゝ。ゝと物

ゝ。やゝくゝ糞と蒔べゝ。ゝる屋
も多くうちくべゝ。糞もくゝ。ゝ
ゝり○根ゝと蒔くゝ。ゝる年。苗ゝひとゝて。
ゝを多くゝ入ゝ。ゝ中うちゝ三月
刈ゝ。ゝ。ゝむ。を。ゝ根ゝ。ゝ屋ゝ長
ゝど一尺も厚くおひ。ゝふゝ。ゝ
ゝ。ゝ糞ゝ入ゝ。ゝ。ゝ月初ゝ一
ゝ。八月一。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ
ゝべゝ○ゝゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ
ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ

の畠らざる所よりさきくぶのみ漬るに池水をくハぶ
れあとぬかけくめ〳〵竹かとをくぶのつあるうこげ
バ苧てよこのぜはうくのくわあるうぶにも悪よこきて。
その中よりの中ほ苧あるうるうさ〳〵。干しよく。百目宛を
一把ともるかり。見ハ苧形ようく作りこ〳〵入るる
又概あり○又巻改全書に八くくるハ麻苧をうの
るぜハさりこ漬うず。細めて地よりぜ。和布糸こか
し。晒と作るる廣さ三尺ばかり。也三るでうにして。
こ苧ぜハれうそ又うら細うかし。平うにかし。よを
るく蹴付或紙ぬうにくたくきぬ付うかしたの



うるざる掛うてこよとうう又あとくぶこ二度
かさ〳〵一度とこ晒よあとひいこぜはうかの
るくかさ〳〵ほとして掛る一合とあるうる油
又合とかこ合せ見と六七晒よらく〳〵巻くたいた
かへべうぶ古をおかへバ生かめるあけうさて晒の棚
と一尺ばうにひさくかさ同ほかひよあるる藻
ぜかけ巻六七月初旬の時ハ藻のよかは又苔ったも
をおかひ又藻のようう細き帛市とんくあとそく
ぐべ〳〵帛にそたぜるるるうう。帛うるる日ぶ
和布ぶハ藻ひとまべ〳〵苗生ものくちよあらばぬる

ちゑべし。苗そだつさ三寸ばかりあらば植とちゑべし。苗の丈
は植も地かいさたらばあらとおりるべし。
四五寸にあらさらば植しうべし。○うちうゆる
地のもいろふもの地と深く耕し。中糞とおか
くべきて畦作りおし固ぐ。先苗もとの方より植
ようあらとうえ地とうるかしー苗又植しー植べき畦
又苗あらと流ぎ苗とつくとんくちを付くくりれて
こしぬるすぐうるを苗とくうへあらそぎ植
て植中とさいく。絶てよめくうさくうあなくハ又云
日か一度づつもあらと流くべし。かくはくくしてぬ



植へ十日か一度十五日又一度そくべし十月の植
よりてい牛ろ植は糞とおりて厚さ二尺持
○かうふをさくく又植しうゆる畠ハ麻畑
植ようぬるを深く耕し中糞を
かけなどかくくして植うさくく細しときうる
ぬ。ようを畦ふりて植も細りかる糞と用ひくよ
くく糞し畦の始植し栽べし芽ハ出んとする
とよりくくめるかうとうるを中ほとと苗るくく成
うるをかりとるなり○うゆる法ようと直一畦
をかり。畦とくれるなり。畦の中に三四寸。

又いとかにくもうへたを厚くかけひをあをへく嘘
め墨牛ろ糞かご紙をくとそくそいろ稲そも。
なをさとうしつめ又れの弓稲しうゆうあらべ油
角の時根をあ〜ぬ時かくあたとばくかくうの
べ〜○又年久〜さ古根を移とひ行をかく如
うつ。かれもさ三年外よして。そも畠の弓景に
花ゴ間ど。まらごとて。二三年横よねさうゆべ〜。
畠ハ四角よして。平地ようかうく。ぐれあふくびあ
るゆ〜長盤れ中〜びるゆよなるべ〜たとかひの
とうく地。泥めうゆもつくさ苗と同じもちうう

かうこ。おくあと漬くべ〜。苗うくすりて細く
中うち〜平せ多ゆうくべ〜。あど長よの糞
しも石ゆ間ど○又二三日除あっとと所りあ
よ苗ようゆうゆ根の病まざる蛭よ細根をあく
仰て。ようかりおこし。葉ですとく色こかげ。
雨日のゆうざる紙ふもれ根ゆ紙をよ
つと糞〜よのをくして。初年もさ一人弾ども
ひううばく根べ〜。二度めすぐくのびるをと
てあ刈れてすぐ用ゆ〜。あとにあうく。牛ろ糞と
わかひ。長ようひのけ。ようあくと人れもおよ同ど。

まくかくれごくしてゑ七月もるとれど根たゆま
げくぷゆるとりて痛こぷ葉多のくにえぬねなりぷけわぶ
とどそらまくる葉新科をかうれくうゆるみちりで
く〜 ○毎年こ百づくいかまもゆべーぷうゑ時根れ痛根
のかきわうゑいたとそるるゑ分づりもあるとゑ根
ド病めうにしてをきかれていぷもとくはしち
べーもこと刈ゑゆく〜持ぐわきされ茅ゑこへくぷ根
くさうへもくかるへー廣芽と刈ゑへぷしりちれわど
とんちくひくぷ芽のいまどさもくあしぬんきき
るれかりぷ芽もくありくかいぷ痛こくさうへるる



ありぷ方ゑ月初めゑ八月まくこ行刈もの
かるとぷ中〜びりるりぷ廣ぐれ持もけるくゑこもう。
刈たちる廣と作刈又に漬刈ゑて撒ゑ紫
とうちくゑのぷたねるくゑ多ふ漬りゑぷくく
度をくだぷ刈ゑくこちゑ白こ度を削わどぷ度と
のげゑうのくれかりぷ色とさぐ稼ふ漬ゑうてなのと
ふれけぷ根廣ととりぷ色こちゑ。かくれどくくするり
ゑ七日ふれわどぷこ廣白ゑ白くこされいるるれるる
ーこ中ゑ天なゑびぷゑ月の風れ色る所これけを
くべーぷゑこあへびぷくゑりて月れゑこどなかくびゑ

よい色にすきうるわるし。こ草は一切まくべ家多
かゝゆゝうゝど必作るべ。ぷくさうぬわがもさい七八
尺へ枝の葉よりかく面いまろく。裏いろ白し。白さ毛
あるく。反れ丸。綱さ。絶と。すぼ黄ろ丸花咲
ありぷく実つくく。枝をぬしべし。他ら枝を丸
とげ。二番刈して。まきまく。色べし。肥ら。ぼ色を
うへ付ざうへねど。ぷ刈ると。ろなり。○又葉をとを
或根をとゞ丸とりて。難痘よぬわど膳きうんきて。
よいゆろ名巻丸菜と記しまろ

麻 才三

あさ丸うゆる法ぷさねど
あらぶ。白ぷ。雄麻る
つと。白しとゆども。蠶ぷく
ふるぷかるくうるかひ
かさへ粉ぷり。白くぷき
くうとすぷこれいうふも。根ぷく国とぬしぬなり。中ら
ゆトれ畠よへ作るべうどぷいるどもぷく新しぷる
もぷかれ丸ぷかど。混ゆもなぷ丸ぷ。番しくこうん
ふるふるどぷ。粉蒸蔵。九粉麻とて。水麻も新しこ
かもとぬこぷりぷ。竪横ヒ色づく粉ぷさこれば麻

よ茎かくぴ末なるあひて若わ
かもかくぴなるとろ ○角根まと一所よ七八束か
ど苟を中分ともるなり 麥つこれど細くして長
かくどぴ落ちれべ ばあらくおさたくあ苟
岡ちげうつぐらどぴ若ちるしとえ習なせうぴ乃ぬ
さてくるよ苟くるいはどして 痛るわなり泡の白くかい
さたる時苟べし ○又苟時分ちよ早せぴ七へ茎と
あふ漬とき芽生じて苟べし 位面あとたあを
きくく漬わど早く生じ 井ぬあよ陰せと至し
あうりよてく湯よひろとひろげぐられと至ぴに

又芽とおかひぴとべ一秋の弓よ芽出ぬあり
ねよ岡ん あり ぴよさい二月上旬 三月上旬 面と尺
かけく麻と苟べしとぴり ○又晩さいぴ芽な
る時麻と苟 麻芽ちる時 麻と苟しとも云なり 早
ちれ付時 麻を苟べさうわとちるべし 苟
て牛ちる糞と多くおかひたとかけ 三日に程を過
べしぴ麻泡ぬ大根畠乃泡を新し 牛ちる糞ちよく熟
し 枯ちると多くへ年ひやし 堀ぬもかく泡うたか
さうぶしをくべし ぴみ混われぐ ねさられくぬ
中とかさちる畠ぴへすの時 二度よしてや

ひべし。白い花を咲く。麻に地を咲くとく。麻畠へ
苗のもぐ目よりくぬよつよ咲くもの也。○同じ
く大麻と作るはあり。ものを多くかく收めて油をとる
なり。はあり。拾るゆへ。油麻ともいへり。白い女
麻とうゆるゆるゆゆまざらなるさ稼とるふ
べし。深く耕すとの二三遍ぞうよも薄く蒔べし。肩
上旬と上旬とのうち。四月中旬より。六月初旬下旬とした。
畑へ蒔うそれよりおよそ同じ。苗ふとるまでぐ
ひくうらべし。地肥あらば二尺五寸ばかりうら
ここ。旅麻はあるとまくめるさたべし。常に畦平を



されいよしとべし。ちうらざれぐ多くあらず。
土地ゆうそうこうろ小実うちうく油乃多ちたる。ひ
おおくぬはなり。焼油してはまたしてまたしてまたして

し。麻はじて六すれ時。蚕の糞又ハ鶏の糞を多くうべし。かさ時ハ人糞もよし。かれなば行肥し。

ほハ一ねづつ播ひ。風雨にたをれざるゆゑなり。

一なれ実二本もあるゆゑなり。早せバ流れやすく

うくべし。遅ハ実をとさ所ハ少しバ。朴のあを汲曝し

熱しをとさ。冷気をとりてそくぐべし。さのときいく

ハ洗くべからず。○こうさく切れ。ハ実ハ新ものを入

くべ。ものくハ根とハくり切し。ねと葉し。干乾

し。若ハ麻をうハでくしそこをすべし。又

小豆の殻ハ入れそくさうハ。

又曰ふ。五月の中旬ハ十月にうゆるもあり。あれ去れ

ハ深き所ハ新しく蔓くハ作るべし。麻ハ

作るものなり

## 藍 蓼

藍ハ色も三草ハ一ハ

ゆく。世と助るゆゑなり。衣

服ハ布を染てあや

とし。ハ色をハく

深きバ色の性とつく

しぺべしさて法て損じ敗ちくるゆゑ。
古今廣く作るゆゑ。ぢんさ稼と稼るゆゑ。二毒を
かくどしてこのこせくれべし。為田に作るハ三番
まくもゑてうゝ乾しめこゝろ。ろく。懐かきあど
に入をくべし。○苗地のゆゑ。大根の跡又編
田もうしぺく新しこゝ。糞を多くうちと記。
苗分こうり三十日三十又日して稼子と下しを
よつゆ濃糞と多くうちぺ又庶とんく寝ふもし。
又ぱさねを庶とゆとして合せて苗もひうちく稼
せるゆゑ。此時ハ苗ゆ稼ゆ生

てゆゑ。ゆゑ。濃糞と多くうちぺ
こゝねん糞ゆくハ四分糞。濃糞一濃水と六分合せくるゆゑ。ゆしてうち
べしさて六十日して為田ゆゑ。畝作るしこゝ幅
三尺ゆすもあらべ一ゆゑ二りこゝすもあらく摸
筋一ゆべしぺんぎれ方ハ一尺
稼ちゆゑ。新稼ハ間もゆゑ。一筋
六ゆゑ。ちゆゑもあらべしこゝ田ようゆゑ時ハ男一
人ゆゑ。ゆゑ。苗とゆゑ
意をうゆゑこくうゆゑを男又ゆゑ。ゆゑ
ふゆゑ。ゆゑ田ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ

と藻ようすくいかるる者あり。若し一あとけかちの一
あるいはもちさるもあるあとんぐくぐるをうくくる。一日に
二三度も治のもあるかとすくいかくるかりうてこ
日乃ゐる。面をかくハ掃うにあとをうくべし。れ田よりひでう
つくハ。用あるハ溝ようもうくべし。れ田よりあを
もくくるゆハ。溝まんなるとくくぐくくぐくくもそれハ
溝より一畝たくゆる程にすべし。○うくくすめ日
く稲裏とがんぐこ一筋より入合かぐくべし。初へめう
うくる裏ようしこれハ溝程ゲより三度ようそと。
写なるそも多くくるかぐ考ようし。綿もようくるくを

あり。○さくく虫をひくくるる。藍を作る者一
乃幸芳方後ようより移るゆかりの行の小枝と十ケ所
も幕にゆハ。ひとをいく。常より面らぐるゆ。ぐくく
とをひくくくべし。又毒虫ハ箕をとるけう
とくく虫をくくひくく拾べし。八十八日或六十日
ゆ面れぐ。色ま及せれ。ありひ問天紙とよく考
て刈収べし。刈とをまく。麦ゐ家ごと刈手でくく
掛げ干し。ゐる日。畳ようゐるあつめ。二反ゐす縄
どてたぐね家より入ゐる日指のかを染の指ぐこよ
つ切すくく。紫ゐあとをさわくを切ぐくいくよを

洗うふるさざこ。箕にうくひてもつあをらくも。紫と葉と紙籤分て葉は拾べし。さくく紫とべいろかどもたるさ日小合せしくく平あげ。葉だてはしても。儀よへを紅ても。商人くようるふい。外まそくろ。一石と根すねもも中分れ西陸なり。○又二番とれる。ぶたくべる田かれ。ぶ。紅と稲と作りくるが利分猶ろう。又二番をたくろふ益あるる。藍と紫とれ西陸と考へく利は多きと作るべし。ろ田は方稲の利つ紅のこ多し。下田は二番とるるも。稲と作りたるもかるるのかきわなり。二番も一番の外粉はさりこをとらぬなどあるわるれども。西陸嫁し。見まぞ。城州名産。○又ゆる法。絲文ある中に唐藍として紫為ながく。厚く。葉うすあるく。色とり紅あり。同じく紫の名きものひ。二色染絲よし。又黄多藍として紫細かがくだてふくれるありぶ。紅のこうひきのこせどさうく安きあれども。染絲ようくすぶれ二文て間と作るべし。○苗地は田はくも。畠はてこ肥沃の地をくれくこ紅地を。畠平にあれ作るまぐい味し。粉とる。三四年もとよ。ハかりなぶ紅いろ紅ど

もようこかし。二月上旬に苗を播き漫し芽を
とおしとときさうく蒔作りし稚苗を蔭そとり廻
糞と土と合せ稀なるむすひとし。こ樂乃時ありと流
き中とかきあぐろ苗ろ田植中きされいうしてそくべ。
けぐろりきうとときしうおかり○苗ふろり空月
の末又月初旬をひくく稚しうゆるゆる植同じ。出
とおきとうのいたぐこれ薑を爽ど植しけとえ
常にくひきとうちひとせべ。出る地すり毎月か
くだごくくして出来く死しあるとんくやむべ。
又若参元根とうたくてきこのおしうしうるも
出ようく死るあり。刈るゆもたんよ同じ作すされ
ごくくくくのよ漬ふとよりよ苗あぐと蒔
よりよ苗さ植ふ洗よ掛げむうり行れ植よして。
りごもにくくもおひ稚きせ苗。冬日の植ようく
ゆくかびりめんゆる時ふあし日ふ平し。儀
い苗だてよ入くく俵あぐろう号とを宮めとそて
うるべ○みくく平しとて印
てぷうひふぷうきとそつきぷ苗とちくく苗あよ
作り平田め行目うそうは植もあうの苗を作べ
き田よハ稲の植よかしと裁べし。苗と蒔べ植あ

蓼くあるきてく二番蓼よりかるしぶちはのもん
よりても蓼地ハ一のきも蓼青をうゆるなり

紅花 才五

紅花ハもと又三草の一
門ってく古来より作り
て織物糸ゑ染ル絹布と
深く落葉ようりて糸と
しぶ色ひたちのあるう
○うゆる地のもちはかりくくゆえ多ありてうる
ばーきハ作れる花乃多もよく漬付よし黄赤黒の

ちんぬ紅花なるとも多くひて作るべーぞうさ田の性
よりハ行宜しー。毎年新しくしー。蕃長とう
ら熟しーかーー色こるふ高月ハ初申乃日蒔べーど
八月地とよくこかし。晩作りしー苗と切ぐねと酒う
浸をの一宿庚蕃やきたにくさ稼を合せ蒔べー。
さたくなくべーど。苗二三寸の時中うちすう。
人を蕃ふーべいふる久しーく移うをいく第よかく
らぐる移ようきようかくべー。苗ふとりさうへて人
蕃ハうよりなぐど新しーくはぐりうきを蕃を用ひ
きーバさうれまぐりて花房とあーぬねあり。鶏乃蕃

又ハ糟漬にしても苗もちいさきはよく多く用ひく。
柳うちさいくしてまゝ厚ういうとうしず厚う
ぞよりたゞよろ門ぞくぐ四月初いまゝ日のあざ
るよ。花ゝくひたくやきたゝやうとうんくつぞ。
ひゝさそもいまゝざるを黄ゝ
つしぐゝゝ。搗ゝくゝぐろときゝざゝ白ゝくゝくゝ。
清れよ漬くやゞそゝゝとゝゝゝ。この上にてもゝゝゝ
るゝゝにひゝげゝゝゝ葉をゝゝゝゝゝゝゝ
下ゝゝ二三日もゝゝゝゝゝゝゝ餅
ゝ遠ゝ日ゝゝゝ。○又ゝゝゝゝゝゝゝ花を作

ゝ注ゝゝ異ゝゝゝゝゝゝゝ。
漬ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
きてゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
てゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
町ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
くゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝ。○又ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

おかれば下地となる根よくこうして糞を多くうちこむ蒔時蒔番茶かどこをかくれば
糞と屑とを合せ下にしきそ蒔べし。ほいまかしめ
中うち培ひ引こして蒔べし。地はよく煮し地を
くゝりて入れて厚紙とんるはけりぬんと紙あるべし。

## 藍

### 藍根 才六

あらねいとをのづゝ
はるもあるをおれども
地と此味一糞一ぬ入

て留ル作るよろずぬ古れ交ぜ黄白にしたはくれ
うかるよう。又ハ古交ぜして沸交ぜて又和ぬもと
糸と作りて。そこれと白又色も新しくかし藍糞
と多く用ひく。そよりの脳しとそこ月うゆる時
いろにも細よしそこ林と蒔べし。蒔ぬうてはうすく
たとれかひ。わたくさ付をうべし。脳ハ中まはもとく
ぬうすそれこそよ痛ともそるわけり○こねとれ
をくうハ園に作るうくもそ又ハ中蒔と月しある
ゆくも九月よく熟しうくなりて色ハ黒これし蒔ん
とるる時ぬくり月ハ平。俵うる紙ぬ入をくべ又

いとなかるべし九十月根を分て苗代に蒔べし
○麻作りしやうを記す
麻を蒔ときは肥土よろしき畑を耕し畝を作り
畝の間に種を蒔べし麻は肥土を好む
○同じく漬麻の事
麻は八月末に刈て一束に結び
束ねて水に漬べし
○同じく漬麻の事
麻は八月末に刈て一束に結び
束ねて水に漬べし
○麻の皮の事
麻の皮は
とあるとき皮は漬る日数よりあとにうらをさして戻と
ちきれとなり皮はうらを湯にたゞし一束の内に
くふくれく見べし
○麻くとをとるの事
麻は
よくくるべし
○同じくあくの事
麻のくるへ再る細一
むすび絲一貫文百目あり八斤六十文あり糸細同じ
く一貫三百目あり
○同じく文十文あり
二百目あり七斤六十文
○麻の事
麻は新一貫目あり斤
三十文あり十九本編
○麻は九百目あり六斤三十文
ふさあり
○ひ六百目あり七斤
○あり
○麻おの年九十月に播べし
青麻は漬る日数
ひとしく熟すべし九月にうるはし二枝かすべし

そく抓とる行陰くゝ山考へうとおなり○図
ト くあぶ ど れいづれも十二釜にあるとおもふ。泉水
醋とのるでれ水とへくあぶすべ。ぞあつ云ありきいろ。
出来るのあり。ぞ付ハせんじがとびあげくぞあぶじ
けと海桶ゝ流入わつき中に海べ。ぞされおぬれ。
ふことくすべ。かくれでくして茂とかさねあぶ
じおとわなりこあぶするろへ濃酒とぞ漬てをく
なりかくれでとくれ水濃こ云かい釜の中ゝくく
流ふなり。十二あとも濃酒同おなり○同ゝく
醋れさゝ加減おり行濃のた松るとくぞ落るゆ

ふ。されども二升ゝ。ぞ盃入るとある時へ。
かげんと考へくわれわとくびく加減して流てん
ん。こゝぞ。ぞれゝ下にあるゝとゝ入るべ。○さくう
わゝとくいこぞつくかげ水手べ。ぞあり乳ある
中にてみくぞり桶ぞ。ぞ入へくぞ和とくべ。ぞ和
水三ぞもたくこぞあるゝ。ぞ又いつこ醋水注ぞ
あるゝ日ゝ杉糸紙ゝ樂入さ。ぞ紙と包こ。ぞ中ゝ
入とさくぞ。ぞ付ぞゝゝしてこ。ぞとれこ。ぞ。ぞまゝね
くるりのあり

豆腐 未セ

かりやすく。畠よう入て紙
生ちす。苗をうえく
ゝ入どし。秋八月のなかの
あまけ。をとる。入せる也
てよく日ふあり。なてく。刈
えし。あらはやぐて刈べ。
干べし。あらあへば。用よろつぶて。
と。楽べし

烟草 オハ

たばこ。夜食されぬ。
ねをこ。こに。
あしをとゝ。
おそ。
ゆるふかれ。
深そ。
古法。
にく。
てしさ。

費。多。
丹波。
○ちさ。
を。
中に。
よく。
おねとは。

ぞくまんぐくれさ稼ぐりとえをくべ〜○苗場
のくゝ冬ゝより二三度も新〜。鳥ゝこゝかし〜糞汁
うしさ〜〜ゑくる水。正月早〜くやさ苗よとゝみく
へくゝたれ焦るくかど焼くるハ作屋〜〜他やし紀内
かどゝ又ハ焼ゝるよりさ二郎かゝらば紫ゝ灰より泥うふこかし。
焼ゝ蔵ゝかどにてゝ灰をかけねゝこゝ毛ゝるゝと。苗ご
ゝとゝて。正月雪きゝて畦作ゝ〜〜ゝと辛らゝふ
ゝ〜〜おゝゝ紀ゝ右れ苗ゝ糞ゝ細泥をわりゝこ合
せ。ひ〜かく。苗くゝ〜〜苗ゝふ〜〜ゝゝ苗ゝて苗
ゝるゝとをかゝゝるゝかゝゝ紀ゝ〜〜ゝゝゝゝ

さゝ六ゝすゝ作ゝ〜くゝゝゝくゝとたゝかをかゝゝゝ
ゝても苗ゝさ苗にくゝもおゝひ。喰ゝゝゝる日ハ苗ゝく
ゝ苗ゝひとゝのくゝ〜。ゝ畦のゝゝふ作ゝとゝゝ〜〜ゝゝゝれ
ゝひをゝゝゝゝゝゝ〜〜。ゝ苗ゝ畦ゝゝゝゝゝ〜〜〜〜。
海ゝとゝゝゝゝ苗ゝ苗ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ。
ゝ苗ゝ糞ゝ紀ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

もぎとりくるふうをべし。あるいは油油にて炒りぶ石
しをくるる性よつて紙袋に作りくるる時ようくいろ
もし紙なきあり竹皮丹波乃たぐこと地いづれもかくれ
ごとし。服アいたくこ田だうりふ作る。ミヒスうとあき
ちに細ふかるもおくありてあるつく袋き性のようき
法とえんこうり（）丸杉袋と黄河時作り箱乃こうり
杉たくことうゆるんかして作りとくべし。丹波ハこ
見一見とえ。ミヒ豆乃ゐるにくれひらこれ一ハ横光
ゐひぐげこっとえかり紫ふとくくるしハ。ミハあ
せびうるべし。豆ハ一尺二三寸。横の重る箱二尺



八七寸。ミと中ゐとして肥こるる法しうとくくるハ。
重り箱三尺ゆくもしー又一箱ハ一尺八七寸にして
底ミと箱より大と多くくひこるる第一ハ紙あか
ゐ。法数多くこれくくりて利ゐ多きこれもわ
るべし。ミミ法味と結ふと考つくくるべし。○う
ゆる木ゐ。ミより一紙ゐ。お深くく完とかり焼たを
外蓋と多くはめ。流蓋とかけ。紙しとこうくこ
月苗ふとりて。細面の中ゐ墨りくる映ん苗乃ふ
とくうひくると。稲ゐ行とさごめお深くうべし。
まれ中かれべ面ゐうるかひうくてもされ。ミ痛ひる

ちゝ。ねぶくあり付あるかれぐ。根乃上紀ようす。すき
実と入ぞ。根付白ろをかるくうちゝ七日ゝ日を
をこさぶ。ゝ。ゝ清こ。紙が多く口ふすのけく入。
べ。かれごくすれこ。麦刈ちやのけるこ刈ちて。
麦うぶとうち返し。白ろとかぶこ。ぞ。
白ころ陰ぐ入六日ゝ。紙ぞこ。ぞく力沢米実ちを多
く入べ。よたぶこ。胡麻の油糟ぶろと乗ひ入
根の白ろこかころと。ぞく。悟ふいよ。鶏も紙き
くあれぶも。ぞ付わ。く。者もころぶず。ぞ一なぶく
乃根とたとかきのけ油糟と乗こて。ぞ二合あ

くも車にとくべ。ぞ。ぞと。ぞ実ぞこて下紫とた
のくゆくあげ。ぞこちをかさおかひかて紀付
とくべ。ぞこぶたぶこ。ぞ紫ふくさこ。ぞ風ぞたを
きこ。ぞ物やけきあけるゆゆふころまこぶひく。陰ぐ中
うちこ。ぞ紫のちぞこ。ぞこるこぶきこ。ぞ口ぶすも
ぶく。ぞ陰ぐ。ぞ。○紫数を付るゆちぞこ。ぞこ人乃ぞ
ミふころるゆかれぶも大こぶこ十二三或十七八花野
あぶ。ぞ花。ぞ乃も付ると乃ぶくこ。ぞこ。ぞこ。ぞきこ。ぞし
乃の。ぞ紫数十数こ。ぞこ。ぞこ。ぞす。ぞ。ぞ。ぞこ。ぞ。ぞか
くるぞこ。ぞたぶこ。ぞ付る。ぞ。ぞ一。ぞ花。ぞ。ぞ。ぞ。ぞ人付。ぞく。ぞき

つゝ虫を取すてゝ仕るべく日ごとに五日まで虫をとり
芽をかくる。毎日二三度取るべし。十五日も田新
しゝとゝとれを取中れを入。苦労たちまち空し
く成て。とたゞこゝに有事なる地あり。○ちんと云る
る。ちの角の中。十分に紫を入くかきこゝにぬぎき
んぱしてこの紫ぜさるハちよ及ばゞと云紫ハいまゞで
見ゝくさるともゞんく油らゞとあるして中ちん元
おなじ日のはくさ中ふ平よる赤へおかゝりすゞ
しむとゝさたゝとこゝ。隠乃紙もあり。ぎ1日よハ
くゝ平しよるふ。ゝもうするもうちゝくく

かるべしゝとゝ二ゝとこゝるゝ。ゝ有そ
とく。時くゝ入糞しゝ十分に仕ゝ取ちくさかさと
らんとゝる時ゝ入糞しを入れをあくゝ仕
る紫も。又おゝをあくゝ。ゝ有ありをれくちう
くと見れんゆる時よりくゝ。先ちんのかさ紫を
二三ねかさゝれゝゝ下れ紫をゝ又三日もくゝ日1合也
時ゝ天乃日中に二四ねをゝとゝもんゝ合せかくべし。芒上
紫ゝりゝそれちうゝんゝ沼才にかさゝえべし。一度ゝ
ゝくかくるまゝ。○さて寝さするゝ度のとゝ
てもゝゝけゝれるゝ病ゝ掃除し紫と葉乃

あをうろ〳〵かさねく莖はあをとりて。ゐるべを
きそぐようすきこもゆくも又は桐の葉るべるべ又は
たゞこの去葉ゝてもどろくれ〳〵にあ〳〵ぬかるをき
ゆをおかひ一日日して藍うろ〳〵そおかひとのけ莖
乃あををゑく藍をさゝるを振すくゝ〳〵ゆう
はよはこゞもやかの色よゆゝるを藍はゆ〳〵縄よは
さみくにるべ。そねゝもものごとく寢さを亟て。
二三日後おかひとのけをべきてかをきかげんとう
かぐひくかの色よ藍ゝあゝばゐるゝ藍ゝ藍ゝ
く一度よハ藍ゝあゝさゝゆゝねさを色く二日ハ後ハ



藍ゝ後も藍ゝく中と場ゝよ。端を中にをゝべ
藍ゝをゝはまでも又付かゆるもあるべ。どゝくかの色
まゞとゝきゝさみくゝるべ。ゝさゝにるゝ程ゝ
侍あり。細き縄よ一枚巻ハ月でゝとゝさゝ縄
乃色さ二日或ゝゝゝゝもゝる而れ日ふゝ藍べ。
ゝ二日ハにゝゝゝゝ干ゝゝゝゝ藍まゞ大
かゝ干ゝる間又ハよ也。二三日干。まゝ和ゝ一枚。
枚ゝとりて又一日も干して收るあり。○又一法あ
ゝ藍さを拓ゝ同じ。縄とかゝゝくゝて一日ゝ乃
と置ゝく二枚巻ゝゝゝくゝゝを合せゝさを内

ようり莖のかくたくさん干ぶ。こ又日も。
莖はしをくかるまぐ干し。秋房こ
よくかはへまき乾ぶ。乾丹海作り ○又一法一月
ごとに一ねづくさこうし九日ようこ三日も又日もよくか
しぼーよるまぐ秋蛍乾にとき。むかるどの
時は一ぶくよしもこもをおかひ。始終かしぼーよねる。
そこ芳作り。ぶーてたくこはあがさ悪味のわ
かはぐよは悪ーとわくまぐ多く用ひ。ようれも紫
の粉をたくしてかくまく稀さも秋蛍乾にとよ
て干とげ。ようふ秋蛍よ合せ曝しぬきば毒ます



くぬけく色あくすきわりてぶがこくさりと
も那くもかく名ひもよく列し秋蛍味わもかし
これ芳が麻乃油糖と多く用ひざれんばこくんるる
那きものすりむ古の性を第一とするるかれども。
いくくくそかくわどよたくこよりがこ ○
又たくこはさのを肥乃花ものぶーを
きくく梨色ーこかし。晒作りー。麦とう麻よ
尉。麦よはよ入ともせぶ。そくうたくこうのべ
き麻といくれもふくくうら。学ーきくくとこ。学
ぶ悪ひのかど切切ぶこよも。清悪を多

くかけ蓋して苗にふすかふてふりうるを深くうめれ
ぶつりさうゆうるぶ。ぶ遠うにして葉のるぐなる。
三度もありむ油糖を二三度も多くとるぶ二三度も
張ひおろごとく○同じくぶ虫とるる二三度も
裏をふる紀酢くさるゆうぐ用ふることくらわる虫。
よれこどりの間よあるものなるぶ問ふりぶかるきや
うに毎日蓋ふるあるすべしぶやくとる僅ふるると。
小ふる虫目ふもさごうにふくぬ程塩ぬれぐふるり
葉廣く成てハ駄くらるる廣くふくく上葉と
ハかふず。絶るゆへ由ひるくるるべし○又云葉

の虫と勢をハ揉ものを振つとかくれぐ虫死るるなり。
又ハせんざんの葉を干し粉ふりてひるるも虫く
死るものあり又若参をふてれぶるよいをかき庚を
たち。ふべ茎めく。葉ようふるハ虫ふく死る
なり○又云たぐこハ早く苗をまふくぶよくう
ちふるぐ。ふれちる中にかふるくやぐて二
度をふバ結ふるく利ふるものあるおかれぐもよふべ
こふ作るるハちる中お油糖と多くべきぶ中れ
つふ紀ふるく合せくちる中浴ふくかふるとよ
しとする時もあり○又たぐふよ結ふる他の作るお

ハ。乾たるうたとゆくさらへ。ひくるゆかれぐも。たぐ
こ。ゆるゆ。ゆ。ゆ。

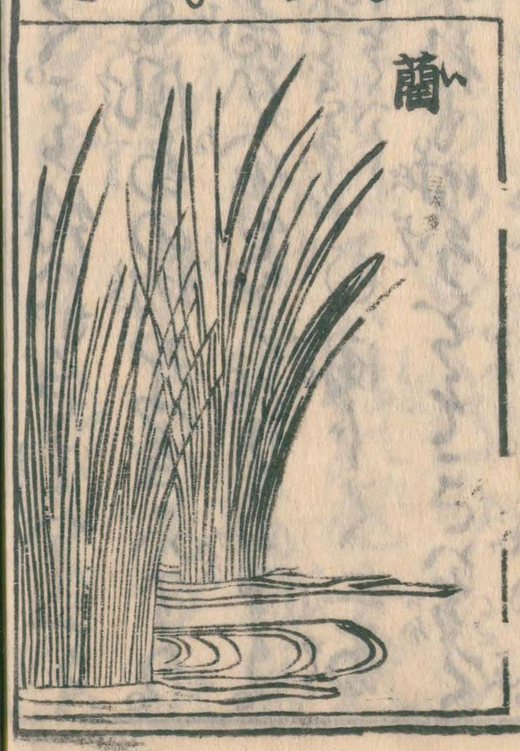
くゝかさ稱。一把を一竹宛てよただらね。薑乃あとら
らにてくゝひとくすりのを時ひざのたに敷くるハ。
れすゝにてさらさらくもあくくすりぼハ味もよ
ゝくど茶にても。大豆。小豆ともくも。ゑのわど袋
よべれうびよとゝのゝくる茶ををゝかとくべし。
おりゝつくとれで茶必とらあひくぼあなゆ
にねゝ○さそのゝ上ただ稱てハ枝ハ樋よ入れ。
氣のもねざるぬよがとひ茶べ。ゝ稱れ。ゝとくも換ずる
ゆかゝ○ゝとうて。ゝ面とゝれを。ゝるゆ色
たぎべゝり。茅ゝ多く。ゝ中ゝまくぼくくうる

りゝ。ゝ二ゝ。ゝ面ゝくゝ。ゝ稱ゝかぎゝべゝ。ゝ
とゝくゝるゝうゝくゝ。ゝ風ゝの時ゝかぎゝいゝう。
さけゝくゝゆあゝ。ゝ二ゝ面ゝ色ゝをゝくゝぼゝう。
風のひくとなすべ一稱をべ○同ゝく二面
茶ゝのゝ。ゝぶゝくゝ入ゝ枝ゝ。ゝ枝ゝをゝさゝいゝ茶ゝく
紙ゝくゝず。ゝ茶ゝ薑ゝ多ゝ。ゝかゝくゝゝ。ゝ裏
もゝ。ゝ紙ゝ入ゝ。ゝ平ゝ作ゝ二ゝ面ゝ。ゝ入ゝ紙
をゝくゝさゝゝ。ゝ面ゝ。ゝ。ゝ。

二百十日の時分に成ば芽ぶきかくなる稲の穂へ
しをたくさんつべし　○たゞこゝ稲穂くなし丹波。
[illegible]服部。和田。解説　目ひくゞどと奥州もゞ山間稲
[illegible]利[illegible]とゝろ。ぬこて作るべし。も稲と
よきたねなり

蘭　才九

蘭一名い燈ともいふ。
葉の面ゝ寝席上。
燈ん[illegible]ゝ用ひ茎ゝ用ふる。
[illegible]食すべし[illegible]




八月頃に安らゝしべ。されば色功有かもさ地也。
地わ[illegible]ゝ面にくい廣く作るべし　○稗は
作る法も苗と作る田と年早稲を作る時
分に刈收りくゞこゝまく新しゝゆるゆる稲田
かるるかし。泥わもかく稲うてゞ[illegible]ゝ
るに[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ
たゞとゝくかゝるゝ。十月初ゆるゝ[illegible]
しそれより作くゞ十二月まくゝ[illegible]
古根ゝ[illegible]稲の苗ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ稲。
ナか許ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]

ゆべし。さてすめる水にてよくさらすも稲と同じ。そ
は熟して異をとりつくうつべし。肩まで其の分。
紙十重ばかりに異を入るとゆとしへすりなり。三月の
比いかわらさるよ紫なるべし。お手ぬぐいて
ことさらとすきさらしめごとく洗いて切くはをれば
ひとしひとしてるほきさりそぎさて苗のようろひり
くべしいかんとおそきさはあきし。○いるべれ
おそるほかりてい稲のあらあれ腫よりこと
てかきとゆひ塩をとくふ水でべし。又行年とおそ。
をひてひるもうしを苗とうへくようこと多

と入てどめうれかりまよりあ塩をうせをひつ
ふすぞ一日も急り中ひおくくよ人と刈ゆべし。裏
たくされどもあくされかまくと面ひあり
どもとん合せ綿かどを当てをくく入べし。
水時ふれる六月十日ようく日和とん合せ
ふどもすまじれば日ようくうすさ酒
くく稲をかるごとくかりく。
池をかりくこと中にこと
くとれんれ花を出酒ひとしてすぐ。それいなる
芝糸あるあるべすくひろげて干べし。百ばかりに

くようすれば苗ともに二三日の内に絶てくさ
ぐさもかれわらのかまぎれにくさくさすくけれ
せざるものは根とかきとりとくさねと中下腐
くあり。ようくうろひくるをとりすて○上面
をうつかたかりをこさぎうとうこ車にくく合せわ
くふかけをさして折の月ゆるかりの人中面ゆ下へ向う
夢をうこさして色を車合せうして月ゆるかりもねば
あたらうすかを一人くく一日一ねこぼくくの面を。
二ねうちうるを穿りうこ仕りとするかりのかを
らりにくい切れるるざるかい嫁人ものとをぱゆへ

みようくかい切れ搗引とかけうくかりとけうるのうこ
あり○又右二たるすの縄の蘭してぼくくの面を穿ね
うちうるるあり。稲ねの穂
つくかれ石おくく束ねしけれ
色源さをうーとせざるかの色の濃くして中分れ
地早稲を作る地をまぬにありせ十分作れざと
南おあるかり源田の肥こうるふるくふくくあ
るい寝席にうりありこと面をうらかとあるこえ。
わらをまぬるどいかをかりの色
とあり○稲乃苗をくるかりて面をとうる

ずつ丈ゆるなり。又は一番植かゝるとして。そのまゝ
五一こ苗とするもよし。ぶつ〻蒔しも入るも及ぶ。
苗のもよりかゝるべわるさきべし。肥えの地ならば
まく。苗のとゝ交るゆへ。そこ〻おれを中〻寝
田乃利益わるく多し。六月刈れ寝のうゝをぬきさ
ゝとこゝまく新してぬわるく晩稲乃苗を仕立て記。
早速うへてぶんぐ事なしごとくをわるなさ
付ふうへてる稲よさろこハとてゝ
刈れとゝあり。何ぶつも必田地ゆるこゝく。そこ
ゝとゝぬ所あるわなりぶ乃地ぶを用ひて寝



植仕るべし。多ぶ乃多ゝるものゝ寝ひて
蒔べるも利あるわ乃ゝ又稲乃ゝ
地ゝるゝ。欲ゝるゝ利なり。ぶゝよりて考べ或な
をもゝとゝくんを用ひゝ利を求べし

## 席草 才十

席草と琉球草と
ゝくゝの面ゝ
なりゝゝゝ時ゝ寝と同
じ。六月刈れゝも又同じ。
白泥と仕ぶるのゝゝ

刈りぶとこまくとさ九十月柿おこし。古根株
ぬかりてうゆるゆる稲をうゆるよかりるるし。こ
ゑをぶれ中とかさ。陰ひとさ。三月又糞を入べ。
糞ハ河乃泥と庶人糞と合せて。根ゝをくべし。
三月ごゝ糞庶を入べうす。必虫を生。しるゝ場
しくなるゆなりいう稲も犯るる田に冠し。ほゝ湖
言れあるる干潟乃ゑ。泥の所りゑ引くもで
ものあり

菅 ㋐十一





もげと稲るほ。八月苦か
ぶとりうてこなれず
一ゑに乃ゑとゑす泥を
きて稲をうゆるごとく
ゆ。糞ハ河ゝそもいと
ひど。稲ゑゝに及ぶと。刈ゝ
どの色と。糞ゝをもう。二三月の比わくゆる
ん茶をわきて搗べ。ごもまく墨バゝ乃の茶ゝ
へぶ。刈干ゑハ蘭ゝかるゑかし。ち乃れ中刈く。
晴日に干ゝと。苗ゝ色ゝ稲の高らぬ所ゝなく

菅

国立国会図書館　タイトル『農業全書 11巻』 請求記号 特7-456　ガラス使用

特 7
11
456

べーも紙とあり分るすね稲とおよそ紙を中
にくだをつきうろ米をとるとす。もさ紙とす。
天紙とん名せ二三日ホ干しよざれだ名ろる
らぶそ名ろちーあへべ名ろあーさろーずさ
べくく刷にろぶそ。蓑を作る泥ハ海田の稈乃葉
ろとよすお魚の北もそハ稈よとらぬ屋
釣のおとろ笠ホ人るあるすどハお
ろく作るべー



国立国会図書館　タイトル『農業全書 11巻』 請求記号 特7-456
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『農業全書 11巻』 請求記号 特7-456

ガラス使用